

<p>研究代表者</p>	<p>所属学系・職名 生命・環境学系・教授 氏 名 黒沢 高秀</p>
<p>研究課題</p>	<p>田口亮男コレクションの整理・分析による福島県の 1900-1910 年当時の植物の種多様性解明の試み Study on Sukeo Taguchi Collection deposited in the Herbarium of University Archives and Collections, Fukushima University, and an attempt to reveal the plant diversity of Fukushima Prefecture in 1900's.</p>
<p>成果の概要</p>	<p>福島県には積極的に生物に関する資料収集を行っている博物館がなかったため、まとまった数の 100 年以上前の生物標本はこれまで知られていなかった。東日本大震災の際に住家の整理中に発見された 1900-1910 年に記されたと思われる田口亮男氏の 2 冊の手稿『福島のスミレ』『福島県植物誌』を手がかりに、約 2,000 点と見積られる 1900-1910 年頃福島県内で採集された植物さく葉標本群がいわき市の田口氏の先妻の実家の蔵から発見された（阿部武，2013，福島生物（56）：19-25；阿部武，2016，会津生物同好会誌（54）：15-21。以下田口コレクションとする）。阿部氏の尽力で 2 冊の手稿は福島大学附属図書館に、標本は福島大学共生システム理工学類生物標本室標本室に寄贈された。平成 28 年度福島大学学内競争的研究資金「個人研究助成」により、田口コレクションの一部の約 300 点の整理を進めることができた。その結果、この中には、1930 年代以降の標本しか知られていなかった猪苗代湖で、現在は消滅してしまったホザキノフサモの 1904 年代の標本が含まれていた。また「いわき地方普通植物」とカバーに記された東には現在この地域では生育が知られていない絶滅危惧植物のオキナグサなどが含まれていた。後の大正天皇と思われる「皇太子殿下御覧標本」も確認された。本研究は、田口コレクションの整理を完了し、1900-1910 年の福島県の植物目録を作成し、現在の植物の分布状況と比較して、当時の植物の種多様性の解明を試みるものである。</p> <p>本研究により、田口コレクションのすべての標本のチェックが完了した。ほとんどが維管束植物であったが、海藻、地衣類、コケ類の標本も含まれていた。残念ながら、学術標本としての価値が低い、採集場所が不明な標本が多く含まれていた。学術的な価値がある維管束植物に関して、同定が難しいもの数十点を除き、標本の同定の再検討が終了した。これらの過半について入力とデータベース化が終了した。現在データベース化済みの 539 点について以下に概要を述べる。</p> <p>これらの標本は 1901(明治 34)年から 1912(大正元)年に採集されている。福島県師範学校福島県師範学校 2 年生から 3 年生の 1906(明治 39)年から 1907(明治 40)年の標本が多い。師範学校在籍中(1905～1908 年)の採集地は飯豊山、尾瀬、福島市内(弁天山、渡利)が多いが、磐梯山、猪苗代湖などの標本も見られ、県内各地で採集旅行に出かけている様子がわかる。『日本植物総覧』で知られる根本完爾が 1905 年の途中まで福島県師範学校に勤務しており、彼の退職後もしばらくは福島県</p>

成果の概要	<p>師範学校の植物研究が活発であったことが伺える。この時期の標本の中には、後の大正天皇と思われる当時の皇太子が閲覧したことを示す『皇太子殿下御覧 明治41年9月』の印が台紙に押された標本が60枚以上確認された。1908年9月12日に来県された皇太子に田口亮男がネモトシヤクナゲの液浸標本を提出したとされており、その際に閲覧された標本であると思われる。1906年10月18日には農蚕学校で栽培していた多数の桑の園芸品種の葉の標本を作成している。当時の養蚕で用いられていた桑の品種を知ることのできる貴重な実物資料である。師範学校入学前と思われる1903年には尾瀬で採集しているが、これは尾瀬における標本採集を伴う植物調査としては1898年の早田文蔵、1899年の星大吉に次ぐかなり早い時期のものであり、尾瀬の植物研究史上重要なコレクションといえる。1909(明治42)年以降は、田口亮男が訓導を務めた石城郡大浦小学校周辺で採集された標本が主である。この時期の標本の一部には、大浦尋常/高等小学校の名のヘッダが入ったラベルが使われている。</p> <p>自然史博物館や博物館自然史系部門、自然保護センター等がある他の都道府県とは状況が異なり、福島県では戦前の生物多様性についてほとんど実証的資料がなかった。本研究により、初めて県内の100年以上前の自然や生物を知るためのまとまった数の実証的資料が整備され、それに基づいて調査、研究をおこなうことができた。本研究で整理された田口コレクションは、附属図書館新館にある福島大学貴重資料保管室植物標本室FKSEに保管されており、福島大学が社会にアピールできるような貴重資料を増やすことにもつながった。今後、このような貴重な資料を活用した過去の植物多様性や福島県内の植物研究史に関する研究を進めるとともに、展示などの普及・啓発に利用することが課題である。</p>
-------	---